



~13
2947
9



古

去心之重

三松香齋

不川白松

敬沙之同
推蘇

也沙之

也沙之

也

松本紀

松本紀

八三特
2947
9

一 秋風起つて帷子飛鳥目事後尾
 て借皆せむ予が神代釋尊たう
 けめて困窮中う孔丘中う道子以
 せうと相後お手の志水多ん十
 博場の利息は居催候はしす
 赤白川の松芳繁の事紙の書出し

口説きあぐり
 負銭の事
 赤白川
 松芳繁



と持糸糸一始末使身迹ち後して
後在家の悪客増長して姉妓若
め奉り盃と傾んと欲然ハ新臺の
嘘贅よ似せ且ハ卓上の硯蓋を引
寄せてふく睡落の小冊を著ては
と不間の打身よてふこぞり後ハ
茶間ちの志西れかづべをひくてき

ちくあつと天窓てんくくとく
勧められられハ予志あつきつと
てきかんして曰燕十あんと大通
のふを急うんや喜ぶ糸身徒堂
文勢を催候して筆の乱杭透間
もふく鉄鉋中くくに打あ
たる一冊を大文輝に方の先生

口入めて裏門好の止るの題号
を時うりして飛んど新板新吉原
いと心客子大門は大堤下薺羅
館の耕書堂下賃の俵料を並
奉茶の如し

一^合えを三教一部

上より喰つるよ

道子孔子一又儒書了

晒書何れか給了
但し〜〜〜

山又哲

紫巻磨苦念の剛了
但し傲首倡摩の絶あり

メ

や
う
う
う
う

書

唐来系

清人

志水多入十



熊谷藏

通神 三教色

前座

三聖邂逅

四季繁華曰孔子名丘仇名通其先通人
父者行子簡母者使氏以其女郎二十二
歳年明之歳十一月庚子生孔子於此昌
平橋水道為兒嬉戲常唱河東叅青樓及
長成意氣浪浪度度也ふどことどはけ
へ嘘めて鬚長の骨長髪山の齒ゆもあ

この堅固の石造合吉鳥も境をわけて隆
糸と云は文宣王ゆを辛巳上よ大通の乃
隆盛んあり一ふか一うかれの文んく
て移ふのい人んはくく浮きをわめひ
終ふま今の昔と遠いゆるゆる清和と
る世の中に是境かゝりて仁義禮智信のみ
為青表紙のる吉を自業自得よあをる
せんより意文の二すく幕学んで時く

巧言令色の海屋をわくくえんと先大日
幸葦汁東都昌平橋の出店小引紙一
風流矢繁をを一して二階三階よ家居を
えて邦君樹塞門といふよ智の庭よんを
木を植込其物好利休宗且よ指を呼さ
せ門よ東江流で大通亭と云つる額を
挂子路を人と反位ひ六藝も何あから
禮小の初賀表之舎級日拘日れ拵びの

不方樂ハ將して菴茶河東節とふれを
射ハ愛じて楊弓と和らけ御ハ浮雲うら
にっふよふふれハ書ハ細見滑移幸小眼とさ
ら一數ハまひららとを化令のメ々々と
ふ一惣髮天窓を本田よ後ハせ着物ハけ
長ク才幅廣きを不厭襦半の衣紋首
小是にけ帯力細ふして髮のどくく之胸を
ちく限煙管筋さぐり天生通筋予とさる

傍の鼻初松鼻よりさく飲と然として
ちけらと好この之を通不孤必有隣其ころ
南膽部州豊秋津洲地神五代
天照皇太神宮も甚ハ蕩樂まはしく編
あらず倚よりぬれ宗も礼まさせ終ひ思
屋根のほれ疎言も久しゆに定か不存志
めとるあけさせぬらずまひささせ終ひく
ゆくも先くもふ当あくこよぬ里門不ハ六根

清淨と拂ひ出さるる城も遠くを繋ぐ
がなより八重後のとがほのどたは儼ざん倭小掉せうてう麻
のハツ耳みみ小こ竹たけあはた云いはたはり結むすひしめや
宮みやよまきりまきり瓶びんくくくくくくらんらん宗そう良らや春はる日ひや三
嶋しまの神かみみ日ひと夜よと明あのひひ一いち八はち百ひゃく万まん
の神かみ遠とほ神かみ傳つたひひよほよほといい言い天あまうう原はらよ集あつり
後のちひひわわ後のちののくくははひひよよ伊い勢せのの太たい神かみ御み後のち
箱はこをを脊せ負おひひののひひけけにに文ぶん宣せん王おうのの所ところのの教けう屋い子こ

と成り後ひしりどもぬんかむらど神かみ酒さけ
のの口くちもも百ひゃくああががららとと一いち寸すん先せんのの圖ず雲うん子し形かたちけけよ
驕かどれれよよ香かうああ細こくくとと毎まい晚ばんくく孔こう子しととほほれれま
控かう里りののここひひととりり結むすぶぶええよりより孔こう子しももここの
めめるる乃のああれれのの茶ちや屋い屋い船ふね高たかのの付つ屋い巻まきりりのの香かう禿く
のの仁に慈じままをを表あ向うととのの神かみのの名なでで皆みな懐あつよりより出い
してして世よ信しんとと仁にののくくららよりより今いまのの昔むかしよよああるるとと
人のひと振あ舞まとと控かうぶぶるるゆゆをを神かみととややいいふふああるる人ひと

此一も冬に初時^{はつじ}なる本^{もと}と此^{こゝ}指^{さし}も因^よみこもひ
居^つしておさびし^したおろろ^ろあれの孔子^{こうし}の炬^こを
よあそりあろろ水^{みづ}調^{てい}子^しよ^よ味^{あじ}せんあませは
節^{ふし}おどめくして居^ゐめ^めの^の太^{たい}神^{しん}の^の夕^{ゆふ}ア^ア系^{けい}ふ
その位^{くらい}精^{せい}りと白^{しろ}川^{がわ}夜^よ赤^{あか}子^し踏^{ふみ}の^の臺^{たい}あまら
ほけぞろこおど磨^{あらい}た^たす^すひ^ひ庭^{にわ}おどまれの
よ掃^{はき}除^{ぞり}して仕^しお^おひ^ひ子^し路^ろア^アき^きて^てま^まれ^れよ^よあ^あら^らん
誠^{まこと}よ日^ひこ^こ不^ふ新^{しん}ぞ^ぞ孔子^{こうし}は^はた^た依^よく^くこ^こ身^み子^しモウ

何時^{いつ}ぞい^いふ^ふお^おも^もい^いろ^ろせ^せく^く太^{たい}神^{しん}の^の今^{いま}折^お角^{かく}
能^いひ^ひ差^さを^をん^んて^て居^ゐる^るの^のを^を 孔^{こう} 予^よの^のま^まら^らい^いを^を
寐^ねぎ^ぎこ^こい^いと^と史^しぞ^ぞろ^ろろ^ろ宰^{さい}予^よお^おど^どを^をげ^げい^いめ
け^けを^をら^らせ^せる^るか 太^{たい}モウ^{モウ}い^いろ^ろは^は目^めを^を托^{たく}
てもい^いま^まぶ^ぶん^んぞ^ぞろ^ろふ 子^しモシ^{モシ} 太^{たい}神^{しん}さん^{さん}お^おめ^めく^くめ
あ^あは^はよ^よの^の紙^しが^がは^はひ^ひて^て居^ゐる^るを^を 太^{たい}ホニ^{ホニ} ナ^ナア^アの^の座^ざの^の
頭^{かぶ}よ^よ紙^し中^{ちゆう}ぞ^ぞる^るだ 孔^{こう} 身^み子^しの^の事^{こと}を^を太^{たい}神^{しん}く^くと^と云^い
へ^へを^を金^{かね}が^があ^ある^るよ^よめ^めせ^せ 太^{たい} 太^{たい}神^{しん}く^くと^とい^いふ^ふの^の

よしてくぬぬ居依の才上でへちとさるる
つか^子 せんあらし神さんとちやせうう^子ソレ
ごふり女房のよふごと^子ソリヤアそふと
夕べ米を一俵うつひで来中^子今粒焚く
のぐそら大が黒うらむ飯不厭精^子今月
いとんご入中^子是で陳以来の通人^子識よ
窮^子と^子太^子コレ子路^子居依のあともさるから
ぞ米の^子出^子へちと耳^子がいつとそれよはけても

私もころして居てもはまら^子秘^子かん^子富^子
貴有^子天^子せん^子ふ^子事^子ふ^子とん^子ぢ^子や^子と^子ら^子ち^子ん^子か
予も^子蘧^子伯^子玉^子や^子の^子子^子路^子り^子小^子舅^子の^子所^子の^子掛^子人^子
ふ^子を^子あ^子つ^子て^子方^子を^子進^子教^子した^子れ^子れ^子ど^子も^子捨^子る^子神^子われ
を^子助^子る^子神^子ぞ^子よ^子ま^子り^子司^子馬^子桓^子雅^子が^子教^子と^子ふ^子と^子を^子
と^子は^子ゆ^子よ^子あ^子つ^子て^子自^子身^子番^子を^子腰^子繩^子で^子終^子る^子事^子
が^子あ^子つ^子ら^子け^子太^子ソリヤア^子ご^子ふ^子して^子孔^子陽^子虎^子子^子面^子が
似^子て^子あ^子る^子と^子よ^子で^子人^子ち^子ぢ^子ひ^子さ^子は^子小^子い^子あ^子れ^子も^子大

新法しんぽう子こ公治長こうぢやうさんも初はついごふにたうや
せんせん孔こうあれも入りぐひこ太たそれでも今で
世帯せたいでもおろて傾城かひせいでも受てあるへお
の器量きりやうどよ孔まゝやうだうふんらねつ
令れいがきひらね子ホニニ魯國ろこくやうら質しちの
あぐれの書付しよふが来中きちゆうた狐この表あはへ不意ふい京きやうナ
おで利上げりあげをせずと流ながしか孔こうあ
アヤあたりら去年きしゆねんの八月はつげつ席菜せきさいの時とき並ならひの

ど元利げんり合あをそとまどらふア二両にりやうの質しち時哉ときぞ
時哉ときぞ因いんころちも代しろと中ちゆうりの天あまの逆さか戈がを
ころちと並ならからして三種さんしゆの神室かみむろも二にちの
沉しづめて今いまであるのへまそてわら十束じゆつのかけ
太たカをころち孔ニニツリヤアいんねはころち太答と
か大日本たいにっぽんを吉原きちげんへ寄よりしてあびやうあ
こまえながらか孔富潤屋ふじゆんぶら我われ差さふだも見けん
徳とくをんびと自みづか子こもちろと受うてんさらせ

因 今と感應寺をうけてんてうぐ大巽感應
雞坤兌乾 孔 せんあう八百萬の神とて
おんであそでもはて世にぐり 太 せんか
事にもあて新世にうとてうて
八幡ははにたんできり中へ 孔 時ふモウタ
食ごうふ何んぞうはひめいあうの 子 今
粒のあまうれ羊の冷汁小豚の味噌だけ
と鶏の貝焼でもうらやうう 太 鶏ハ

おれはとらおび 孔 侍らるせんぞあんどが
あうふ トはわうら 釈 如來時代のいんととおあんり
せうに御まかとのこをまう孔子もてあうら
孔 朋遠方より来る事ありまゝ樂一から
ぞや和尚ふんとあつて 供さぶく一神
釈 せんあうとふやせう ト何中うす子よ
云はけてうと
太 これの賓人はあうおてお目よかう
釈 ホニはうらぬら坊さあうらうら
のうらうとあうらあうら 太 せんあうら

中のさ 孔 時よ英雄豪傑よ錦繡の出えの
釈 アノ 須達長者よ本堂の寄進をねと
 丹さ 孔 欲心成佛へとかく中まぬの 因 りろ
 く此事の法より万事浄堂濯川一流して
 又蒼波扁鵲と化る象の中の町 釈 まさ
 袂よねながあれども阿難よねと名代
 を出した内ふの玄賣女色黄金の肌より
 遥雪の肌ありがごと 孔 寺小斗り居て

も歴々莫々ととてさびくろふ 因 あんでも
 今夜へびとくド和尚もそのはりのでき
 といふ 釈 然し囊中の空とぞ 孔 それれど
 つこひ不佞取知之物 釈 あつて入るやア
 ぞよして 孔 和尚も異端の虚無寂滅の嘘
 をうりけひて継く狂言をまぐがあれも
 又んさつせんアノ師見さうたのめしてあ
 ち令ふれども 釈 師見とふ 因 ソレ 存 因 存よ

階うへ小及せまづり席せまよ及せまづりかどとゞりなりでけ
中な野や布ふがゆかどとゞりてむ上じやうよはとあ
たよ然しかし三さん也やまてとりの利り合あがらとたり
まが京きやう 孔コレ野や夫ぶをりうちんか何なにでも
貸かをあり借かるが可か也 釈是こ借かの法はうの赤しやく
梅うめ檀だんとほ床ふし款くわん加かとてと並なら 孔ととの
はまりはせんか事ことは先まきでち根ね牙がよ糸いと
て堀ほ小せう淨じやうん我われよあてがふ者ものはれ通とほり 釈

ありがてへく 因ころちがとりの日ひなとと
いふに瘰ろくがあると思おもへを和わ尚しやうも説せつ法はうのあり
がとひうに瘰ろく 子せんかひびのをわてり
かさるふく今いまかゝ駕かを三さん挺ていえ付つせう
 孔君きみ賞しやうよはり時ときは加かをせりてはり
えををえうちんか 太には諸しよくの不ふ
通とほとらふともんは諸しよくめありうとあ
ず 釈は小せう慈じ白はくの至し妙めうのほをけてんめく



磨画

でせうちあてく^孔酒ハ無量不及^孔和尙も
よく呑^のむ^める^ここ^は是^ち子^し山^し田^て屋^や掃^はき^した
ちや^アあ^りら^太被^はつ^ても^曳連^れが^跡つ^て居
や^てあ^れども^一を^出目^みり^けや^せう^釈酒^ハ
上品^トの^太ナ^ニ芝^し原^{げん}と^割は^り氷^こ穂^ほを^入ら^から
安^や國^{こく}と^人が^あり^ませ^とと^玄子^し路^ろ白^{はく}の^徳利^りを^出し^て
子^子せん^あら^うは^らし^ませ^りと^あり^て我^{われ}て^教礼^{れい}
や^せう^釈ほ^かで^小天^{てん}蓋^{がい}と^いふ^をを^子諾^{だく}と^いふ^を
十

孔^{マア}そ^ころ^ろと^から^しめ^られ^りと^から^しめ^られ^りと^から^しめ^られ^り
か^らさ^れば^不居^ぐと^因つ^て一^りを^しら^しめ^られ^り
後^ごへ^の埃^いと^いふ^埃の^あら^うと^思ふ^孔第^だ先^{せん}
是^ん神^{しん}の^掃出^{しゅ}と^思ふ^釈和^わ光^{くわう}同^{どう}塵^{ちん}と^も
ち^りの^小ほ^ろと^いふ^の太^ホニ^ニぢ^ぢと^いふ^の老^{らう}子^しが^心
一^りつ^てい^ふと^いふ^釈老^{らう}子^しや^莊子^しの^心は^久く^し
あ^らう^とい^ふ孔^周の^心は^久く^しあ^らう^とい^ふ
け^太ホ^ニニ^ニぢ^ぢと^いふ^の心^{こころ}は^久く^しあ^らう^とい^ふ

きこわう **釈** 一簞食一瓢飲ふど、つらづに
斗いの男どが今でもも負え之の **孔** 脱と曲まて
枕ととらと楽ことて内よ斗居中て中が
か中こ **因** おわく **の** 方でも 目り蓮とと
人の **釈** おりゆべら らうに 釈
不孝 の 中こ 一 生と う ら く の 仕へ せ
ぬ 上 の お う ろ 子 路 徳 利 と **子** サ ア く 酒 を 以 て
事の 鞘の 破ご と あ ら う て 破 も 実

て あ ら う て の 微せい 生せい 高こう う 不 で か り る よ の 及 ば
ぬ **孔** コ レ 料 理 お う 切 目 心 か ら ざ れ を
不喰 ざ せ 又 例 の ぢ む を ま め せ 是 以 君
子の 庖ちう 厨ちう を 遠 ざ く **子** 久 し め ん ご す し
せ い と く 斗 笑 ふ せ 如 來 さん **釈** イ ヤ 子 路
が う こ ろ ら の う せ く お れ が 切 ら ふ **子** 十 二 サ
は う う が あ ら す 精 を 料 理 と や ア ナ リ **釈**
あ ま を あ ら う の 檀だん 特とく 山さん の 阿あ 羅ら 菴あん 茶ちや 伽か

羅惹茶の妻仙人（せんじん）のけうと料理もあつたべ
 ぶよといひあく（因）おれが湯（ゆ）立（た）の釜（かま）が少く
 て居るをぐざかんを付さるせく（孔）先（せん）別（べつ）徒（と）
 並申（な）た（た）サア（サア）く亭（てい）之（の）役（やく）小（せう）はぐちて和尙（わじやう）さ
 中（ちゆう）さう（さう）ト（ト）一（一）のめ（のめ）之（の）釈（しやく）か（か）つ（つ）す（す）どあ（どあ）も由（ゆ）先（せん）ア（ア）是（ぜ）の（の）い
 う（い）の（の）報（ほう）謝（しゃ）でござり居（ゐ）す（す）（太）おま（おま）や（や）ア（ア）が（が）れ
（ト）の（の）拍（ぱく）子（し）の（の）釈（しやく）南（なん）を（を）阿（あ）弥（い）陀（だ）佛（ぶつ）酒（しゆ）と（と）こ（こ）が（が）一（一）た
（酒）が（が）こ（こ）が（が）れ（る）南（なん）を（を）阿（あ）弥（い）陀（だ）佛（ぶつ）酒（しゆ）と（と）こ（こ）が（が）一（一）た
（神）も（も）南（なん）を（を）三（さん）之（の）室（しつ）と（と）い（い）く（く）孔（孔）酒（しゆ）と（と）い（い）く（く）達（たつ）た（た）の（の）酒（しゆ）の
（か）が（が）う（う）め（め）た（た）恨（ごん）と（と）重（じゆう）と（と）る（る）孔（孔）酒（しゆ）と（と）い（い）く（く）達（たつ）た（た）の（の）酒（しゆ）の

ぬる（ぬ）る（る）の（の）釈（しやく）ぬ（ぬ）る（る）不（ふ）り（り）ふ（ふ）だ（だ）ん（だん）其（ま）赤（せ）よ（よ）あ（あ）つ（つ）て
 寄（よ）り（り）た（た）年（ねん）母（ぼ）斗（と）り（り）々（々）つ（つ）て居（ゐ）る（る）の（の）ふ（ふ）を（を）これ（これ）で
 も不（ふ）る（る）文（ぶん）字（じ）教（きやう）外（がい）別（べつ）傳（でん）ふ（ふ）と（と）く（く）意（い）氣（き）ふ（ふ）
 不（ふ）を（を）棄（あ）て（て）人（にん）を（を）ば（ば）登（のぼ）と（と）斗（と）り（り）て居（ゐ）る（る）よ
（太）不（ふ）許（きょ）林（りん）酒（しゆ）入（に）大（だい）門（もん）と（と）志（し）也（や）也（や）也（や）と（と）い（い）て（て）い
 好（こう）で（で）ふ（ふ）く（く）て（て）と（と）ふ（ふ）る（る）め（め）の（の）で（で）（孔）お（お）う（う）ぐ（ぐ）ら（ら）う
 ても季（き）氏（し）か（か）ど（ど）の（の）山（さん）事（じ）で（で）大（だい）が（が）尚（しやう）と（と）そ（そ）ふ
 でハ（ハ）一の（の）利（り）合（が）で（で）金（かね）を（を）方（かた）と（と）お（お）ま（ま）つ（つ）か（か）（釈）

ちと借りてくめ因 借さくいあうが方の大を
あかひち 已貴よそふえねく釈 大あかひちとへ孔
 大黒よ釈 おきみへちとさうぞね孔 たー
うし 大竺よ居る時ハ摩訶迦羅と中
 ちつとそふぞナニ おりつがまりて出て地
釈 そこハ怖婁那の糸台小文珠の智ち
 志でうたのめすりふ孔 それより息子夷あひ
 屋三娘よおれが仕送りむく をあてきつひといめ

因 ころちがよ代の雷いんげん のはう中はのほよ
 咄してふよ子 けりちのぬりがりひあし
 あきも春日小八万あやど借てたをれよ
 せふぞ子 咄の中子 ぶがおあいとく中アサ した
 和尚さん釈 彼岸いん の中が受ておたきるこ
 さいのふ子 つかさよふ子 おあいのめおさふが
 めめのり釈 おきも海坊うまがうづ の梅清むね をさんら
 中うよあつ子 あつい偏祖へんそ 右肩みぎかた 和尚好せうこう

物トをレ遊ビ 孔 孟子コノ子ノをレ見セるルとシ祖ト禡ト裸ト程ト
 てレうレんセ 太 折トとリのレをレ モウ 入ルおシあリ申スた
皆 ホ ニ モウ ちトくクあリてシ 釈 百ノ乃レびレうレらレば
 けニ観音をレさシてシひノ出トとシふル 太 ありレハレら
 ひレをレとシあレアレガレうレうレいレあレいレいレ 孔 ちノ
 えレづレよレ合ノハレ滿トとシめレうレ傾珠をレ賞セてシハレ手
 のレあリるレ男ノぶレめノをレ 釈 ちノめレあリるレ返トとシ自
 かレるレをレはレひレいレいレ 太 境ノがレうレらレばレかレるレ返

かんノぐレ 釈 ア レ モ 上ニ慈登田村登一不余程もらる
 よ 孔 松登のレかきたレがレ不レでシをレうレくレ花を
 りうくレたレとシあレ 太 何レんレどウ女ノのレよレあレなり
 をレあレてレ居ル人ノとシ 釈 七レれノりノ身子のレち
 をレ凡夫がレ女ノとシあレてレ居ル 太 浣布とシて
 ちノいレてレ女ノ男ノのレうレらレぬレのレ 釈 亦生
 男子 孔 時子 孔 時子 孔 時子 孔 時子
 けレ火浣布ノ羽織をレ持テ祈テ八九支倍

て来さるせし人子語がう 子 七れでいあいた
はまより中をせめくせ 孔 朝よ晒落をそして
夕アふ死すとも是を可あり 子 七れのまふ
ぶられども 孔 ハテは聖宅を家修ま入ると
金満と出まらる 子 七れもはむむ極り
もあひよ無遠慮とたいともまふまふまふ
ふいやアぬら 孔 予りてあぐれた天厭く
子 羽織を挈て修屋よまきると 子 八困窮如

たりとぞいめは 子 七れでいあいた
くだの 孔 け人ふしそは病あるる 子 困
まの板が空ああり 子 七れは神樂う
祢豆著変でも喰ふ 子 七んか下果を云
むとけけけよ正直 子 正直へ一杯
の盛よまう 子 七れは神の
隣さか 子 七れは神の
樓へあれ 子 七れは神の

芳野トから糖トが丁トの朝日丸ト屋ト西ト本トへ
外トへ行トねトく孔乃トちトふト所ト斗トリトゆトくトの釈
阿彌陀トと心ト中トとくト肉ト心ト行トくトさト太トそ
この大和屋トうト船トよト業トうトてト堀トとトあトやトせトう
茶トやトのト毛ト漆ト屋トよトあトふトり大つトてトあトう
ゆトとトろトろトてトんトよトり孔每トふト神トのトよトふトよ
もトぬトくトあトまトきトハモウト居トねトくトせ釈けトらトあトやトめトり
孔孔かれトハ黒河トうト所トのトかトくトうトいトふトあトふトり釈

ふトんトでトもト一ト変トしてト一トたトりトゆトぜ太めトらトろトんトの
事トさトりトをト越ト前トかトどトへトどトふトでトあトろトふ孔よ
りトろトふトく太和ト尚トさんトのト三ト國トとトいトふトおトいトろトん
とトさトんトけトよトう釈三トごトくト傳ト来トのトんトめトらトで
てトうトどトり太まトろトちトがトけトこトくトよトもトあトくトが
孔孔めトろトこトうトよトりトろトふトくトサトアトくトあトまトまトと
さトろトせトくトトトこトまトくトまトもト子ト宰ト我ト子ト貢トとトいトふ
矢トとトあトらトてト拾トめトんトどトいトてト来ト中トた孔

これい大出来くせんあうあめくあぢ
をねむせサアくせんあ出さるせく
者もモウよりウ網よりく孔逝者如斯夫
不舍昼夜子せんあうああうあ
お目ふかりやせう

後座

赤樓雜談

旧事記嘘八百卷萬八牧目曰天津浮橋
之邊有數多娼家通之客神銀漢乘扁舟
云中めの天野屋の伴時舟とあんえつる全盛
のちいんふ伴時送る鶴鶴のとりりらして
浮橋での一寸の男より候く保くあしせ
後い大鼓未社の神と引達雪の居後
新度り箸紙をことごとくしてある夜もく揚

はあもそのにすゝぬ事あれりとて多く
の令を出して身うけしてたのころ清の別
荘（ま）よ困（う）ひ並（な）はよのこ朝暮（あ）はくくはれ
お父國常（こ）立（た）まのたのみやう我（わ）は是（こ）一生獨（ど）
身（み）ありそれよりくさるがなるまの男女交（あ）
合（あ）の及（あ）を始（は）め因（い）の根（ね）う混（ま）く沌（と）として
くらんあらしの仕方と甚（し）に立（た）振（は）ゆく
て二柱（ふ）の由（ゆ）神（か）とほひよ遠（と）う國（こ）は流（り）のま

女神男神も今の身よけうくはひたのみ
やうむうの身あれどよふ仕中りや
もあつたうけ身ふあつて二門一家さへに
とげきもあうかぬの荒地をえ立（た）天（てん）降（か）り乾（か）
を立（た）く愛（あ）女（に）屋（や）をせんめのとそれよりあま
えめよた女神をあつたひてはひよ娼（さ）家（か）と
あし終（し）ふされの神の左（さ）邊（へ）をせ終（し）ひ一（い）不（ふ）あ
まびとて今の身ふあうと神（か）清（き）と名（な）付（け）

よしは和國は流れの君の始あり其のち
人の事ふらしては室の津其外而ての
風こわげとくかざあふいとあわす又東
小盛んあり一の邊余河家よ新をほらぬて
娼家あり一と 吉原大全 中山も豊盛屋新
義とまゝる者あましの松女を抱入て置て
昌せーとあり其後郭今の大門毎より又
今の新吉原小川より其旅ひこころあよ

あて松の位の散うせぬへ王盛やしく予が
がふれ しんり 力なるがととも思ふすかくてこ
人の聖達せいだちの途中より三牧さんまきめて如きと花びせ
大門よけけかごらんかと拂ひ衣紋えもんほくら
ひ大門よ入とれたの鞠まき弓如りかど滑なめ転ころ
かうら仲の町たぐいの長湯屋がえんせく乳
子先せんをさめてあぐり鈴くば使もち燈とうをよ出とらんと
福ふく屋やふどとりをよ祝いわい盃さかづきとめてか一戯

前屋へ（まへや）恙者（しやうじや）をとりらせして仕也（しや）とけけ
させ有（あ）べたがりののびかどわりのてそ
とくよ仕也（しや）恙者（しやうじや）小批（せう）灯（とう）射（しや）させ紙（し）前
屋（まへ）一（い）の二階（にがい）之上（のうへ）皆（みな）く唐（たう）士（し）が座（ざ）を
とらる（とらる） （孔）息（いき）子（こ）定（じやう）くさる（さる）せ入（い） （因）定（じやう）
がよふ（がよふ）座（ざ）のゆす （釈）神（しん）儒（にう）佛（ぶつ）とらふ（とらふ）
ぬ（ぬ）が上（うへ）座（ざ）でい （太）これ（これ）でさうど（さうど）儒（にう）仏（ぶつ）
神（しん）ふ（ふ）る（る）ゆ（ゆ）と （美）今（いま）こ（こ）の（の）お（お）ゆ（ゆ）く（く）い（い）は（は）一

えでござらます （釈）こ（こ）の（の）さ（さ）こ（こ）の（の）い（い）は（は）一（い）
い（い）ち（ち）と（と）代（だい）ふ（ふ）い （孔）時（とき）よ（よ）定（じやう）く（く）和（わ）國（こく）う（う）え（え）あ（あ）り
の （美）い（い）ま（ま）め（め）ろ（ろ）こ（こ）な（な）く（く）い（い）座（ざ）の（の）ま（ま）す（す）何（なに）
り（り）凡（ぼん）推（たい）あ（あ）り（り）源（げん）氏（し）胡（こ）月（げつ）小（せう）万（まん）葉（えつ）集（しゅう）ら（ら）
ら（ら）の（の）和（わ）奇（き）八（はち）重（じゆう）垣（げん） （孔）投（たう）入（にゅう）の（の）あ（あ）ら（ら）香（かう）
と合（あ）ひ（ひ）て（て）白（はく）れ（れ）と（と）髻（げい）ふ（ふ）て（て）城（じやう）と（と）修（しゅう）ん（ん）と
欲（よく）と（と） （包）能（ね）ふ（ふ）出（しゅつ）拵（しゅう）べ（べ） （ト）ま（ま）た（た）
た（た）と（と）あ（あ）り（り） （太）隣（りん）へ（へ）何（なに）と（と）と（と）い（い）ん（ん）
け（け）ん（ん）と（と）出（しゅつ）て（て） （太）隣（りん）へ（へ）何（なに）と（と）と（と）い（い）ん（ん）

ど 禿 異浦さんてあざり中 孔 アノぢのいふ
よま 釈 己どんふ客人の 禿 浪をえんてど
さうゆ 大 ハテナ 孔 酒の百葉の長たり
盃を抱をせよと 私 子始さうせ 大 私
肉て呑んこのがま 釈 ねく 大 せんふ小
碎 大 其らん 大 瓶日小 瓶子の酒を呑
ど 釋 俣 孔 うらとら 大 ともそん 大 和
尚 大 酒の戒の其 大 一 大 たる 大 ころ 大 と 大 執着

心 大 繋 大 どれ 大 改 大 と 大 あり 大 禿 大 ころ 大 ち 大 ぐ 大 ち
い 大 せ 大 釈 大 ヲ 大 ト 大 有 大 く 大 こ 大 ぶ 大 一 大 つ 大 請 大 こ 大 不 大 へ 大 徳 大 よ
西 大 方 大 で 大 へ 大 あ 大 ぐ 大 て 大 心 大 方 大 極 大 樂 大 淨 大 土 大 ぶ 大 サ 大 ア 大 と
く 大 さ 大 ち 大 ち 大 ち 大 美 大 一 大 つ 大 吞 大 の 大 之
釈 大 ト 大 し 大 お 大 ま 大 ぐ 大 ち 大 ぐ 大 ぶ 大 孔 大 和 大 尚 大 の 大 敵 大 野 大 郎 大 の 大 盃
釈 大 それ 大 へ 大 あ 大 ん 大 む 大 べ 大 孔 大 ハ 大 テ 大 蒲 大 萄 大 美 大 酒 大 夜 大 光
杯 大 ぶ 大 大 大 欲 大 吞 大 皆 大 無 大 上 大 よ 大 こ 大 が 大 す 大 大 大 怨 大 き 大 か
か 大 う 大 あ 大 め 大 ぐ 大 上 大 へ 大 せ 大 う 大 孔 大 再 大 せ 大 ぶ 大 是 大 可 大 へ

たふさよふ ^[愚] せんあうかあひ ^[愚] りらやア
 やあらしんよあうしきそめいのさ ^[愚] 改ま
 おれがとろ ^[愚] 笑へ出ーあんーアしおがらんそ
^[釈] 息子とあればあがすまらひかゞざ ^[愚] 者
 と中ふ ^[愚] 蓮根混沌として 鶉卵の如く
 ちさうあう ^[愚] 押をささぐす ^[愚]
 純子とく ^[愚] へて ^[愚] せいひせ ^[愚] これへ迷惑 ^[愚]
 あらく ^[愚] 慢沽酒莫私 ^[愚] どの ^[愚] 地明の

ちんを ^[愚] 二 ^[愚] 地 ^[愚] 明 ^[愚] の ^[愚] 善 ^[愚]
 を切らし ^[愚] せんを ^[愚] 切 ^[愚] それで ^[愚] 光明偏照 ^[愚]
 十方世界 ^[愚] 二人 ^[愚] の ^[愚] 面 ^[愚] かく ^[愚] と ^[愚] あ ^[愚] る ^[愚]
^[愚] 息子 ^[愚] が ^[愚] 喜 ^[愚] 憐 ^[愚] 苗 ^[愚] へ ^[愚] 大 ^[愚] ぶ ^[愚] 光 ^[愚] る ^[愚] の ^[愚] ^[愚] 池 ^[愚] の ^[愚] 毎 ^[愚] 天 ^[愚]
 が ^[愚] 所 ^[愚] へ ^[愚] 行 ^[愚] く ^[愚] め ^[愚] う ^[愚] が ^[愚] げ ^[愚] 小 ^[愚] 便 ^[愚] 者 ^[愚] へ ^[愚] あ ^[愚] る ^[愚] 中 ^[愚] に
^[愚] 一方 ^[愚] 純 ^[愚] 子 ^[愚] を ^[愚] 持 ^[愚] 持 ^[愚] る ^[愚] の ^[愚] 方 ^[愚] と ^[愚] かく ^[愚] と ^[愚] なる ^[愚] の ^[愚] 方 ^[愚]
 かく ^[愚] 後 ^[愚] 右 ^[愚] 凡 ^[愚] の ^[愚] 身 ^[愚] う ^[愚] 振 ^[愚] る ^[愚] あり ^[愚] と ^[愚] なる ^[愚] 者 ^[愚] へ ^[愚] 有 ^[愚] る ^[愚]
 ち ^[愚] と ^[愚] じ ^[愚] ん ^[愚] ド ^[愚] 何 ^[愚] せ ^[愚] う ^[愚] マ ^[愚] ン ^[愚] 入 ^[愚] る ^[愚]
 さ ^[愚] う ^[愚] た ^[愚] う ^[愚] 大 ^[愚] ぶ ^[愚] 光 ^[愚] る ^[愚] した ^[愚] ト ^[愚] ツ ^[愚] け ^[愚] て ^[愚] 善 ^[愚] と ^[愚] 下 ^[愚]
 是 ^[愚] 孔 ^[愚] 子 ^[愚] 何 ^[愚] 中 ^[愚] なる ^[愚]

けさうらん と神さ 差 おあゝ根うらた上りほせんらと
 あげませう 天 いふかみろ 差 さぬうあらし
 たらへはりて糸のほせ ト立て 和 早苗 とあ
 や 禿 アイ 和 ちりと来や ト何申うさしやまつい
 みる 釈 今夜いとんごま い 火宅の中 えん であ
 こゝろ 太 火鉢の火が内外 ふい せうく と よみ
 了 孔 せとあをげ い べい 孔 にく 聖 後 う
 野 十 や炭を 十 出して 十 け 禿 アイ 太 こめ

盆 う を う ち う ゝ う ん う 一 う 持 う て う い う ま う や 禿 アイ 梅 次 さ ん
 其 十 祝 十 世 十 並 十 を 十 の 十 け 十 て 十 ぐ 十 せ 十 入 天 お う ゝ う ん ら と
 さ う げ う ば う せ う 唐 押 そ ち い せ う 天 マ ア せ
 ひ く ト 内 孔 務 の 事 の こと 孔 斗 さ 笛 の 之 の 妓 の 何 あ
 足 算 也 が う と れ 子 娘 女 不 ふ あ ん ぞ 彩 く わ
 の く さ ん 一 寸 吸 は け て ら ん あ ん 一 彩 アイ 彩
 ア レ ち ん ぶ ら ぐ あ り い ち ち ぬ く ま い 一 た
 こ し め の 子 室 一 寸 事 や い の の を ち り 子

是て始て一ツ進上因進上大右孟敬白右
 いつさばそれへ大まふゆゑののではざるす
とれた女何女ハイ内下わうらあげます新アサ
申おま
とさよふあういぞんますトつぐは
亭是のせう一ツ上壳のまを因とてせで
 如意満足右臨機應夢とその孟の
 息子おさうせくおまが肴を仕よふト
花ととそのわういへむとざるはせて亭

こつちの杯のおしんへあけはせう唐ころ
 ちう右つちが敵のあひま孔は欠とらんと
 とらちのちう大まふ右碓右た因コレ其子
 せんととちんとめけやあふとの風よ吹り
 れると右と右ある新真如の月がとんとと
 ちととちうあうのあふあけす因
 吾まねくともうだモウ右おさめくとハイわう
 がうはのはるはるトりて右内右亭右さん右

へどくろけりあんにた^亭は戸あるれさ^{ホニ}今
日あつこのふくがより中^中はふとなほした
孔ソリヤア^{ホニ}きびぶよろろ^{ホニ}まのふの西方川
瀬^{ホニ}又出さぐらふの内^内は忘然^ガと閑居^{ホニ}して
居^{ホニ}このめを^{ホニ}残念^{ホニ}因^{ホニ}子^{ホニ}塞^{ホニ}で^{ホニ}それ
もおれへはさう殺生^{ホニ}戒^{ホニ}の破^{ホニ}らぬ^{ホニ}孔^{ホニ}ホニ
和尚^{ホニ}ふんせよふとあつころけ大^{ホニ}り^{ホニ}い
ふ事^{ホニ}がある^{ホニ}釈^{ホニ}おん^{ホニ}釣^{ホニ}不^{ホニ}綱^{ホニ}らぎ^{ホニ}の^{ホニ}

へ網^{ホニ}小^{ホニ}お^{ホニ}の^{ホニ}ふ^{ホニ}が^{ホニ}ア^{ホニ}ん^{ホニ}が^{ホニ}か^{ホニ}り^{ホニ}て^{ホニ}ま^{ホニ}さ^{ホニ}
と^{ホニ}り^{ホニ}因^{ホニ}の^{ホニ}仏^{ホニ}檀^{ホニ}よ^{ホニ}ある^{ホニ}の^{ホニ}さ^{ホニ}皆^{ホニ}ころ^{ホニ}の^{ホニ}大^{ホニ}笑^{ホニ}
と^{ホニ}り^{ホニ}よ^{ホニ}ある^{ホニ}よ^{ホニ}ふ^{ホニ}出^{ホニ}あ^{ホニ}さ^{ホニ}れ^{ホニ}る^{ホニ}た^{ホニ}大^{ホニ}が^{ホニ}
ま^{ホニ}ふ^{ホニ}出^{ホニ}さ^{ホニ}る^{ホニ}を^{ホニ}ね^{ホニ}され^{ホニ}る^{ホニ}さ^{ホニ}三^{ホニ}お^{ホニ}ん^{ホニ}と^{ホニ}ん
た^{ホニ}を^{ホニ}こ^{ホニ}と^{ホニ}を^{ホニ}吞^{ホニ}ろ^{ホニ}み^{ホニ}ん^{ホニ}ト^{ホニ}吸^{ホニ}付^{ホニ}て^{ホニ}物^{ホニ}アイ^{ホニ}因^{ホニ}酒^{ホニ}
へ^{ホニ}ど^{ホニ}あ^{ホニ}つ^{ホニ}か^{ホニ}ら^{ホニ}さ^{ホニ}ら^{ホニ}ち^{ホニ}ま^{ホニ}せ^{ホニ}う^{ホニ}ひ^{ホニ}と^{ホニ}ら^{ホニ}よ^{ホニ}
ろ^{ホニ}う^{ホニ}ま^{ホニ}ゆ^{ホニ}ほ^{ホニ}ら^{ホニ}さ^{ホニ}ら^{ホニ}り^{ホニ}は^{ホニ}ゆ^{ホニ}う^{ホニ}ふ^{ホニ}か^{ホニ}と^{ホニ}
り^{ホニ}ゆ^{ホニ}て^{ホニ}酒^{ホニ}潤^{ホニ}身^{ホニ}で^{ホニ}董^{ホニ}卓^{ホニ}ゆ^{ホニ}え^{ホニ}さ^{ホニ}ら^{ホニ}だ^{ホニ}ぞ

亭 おうんとんでおのひ出たさあひあけ入り
 ト不折ろろ三味せんおれ来る^と ^時 ^{これいどあ}
 万里佳隆五調^を流活^を流活^をき^{する}
 振もよふ出おされ^は ^{皆くそれくおあひさ}
 略^ス ^孔 ^{登樓} ^{万里} ^春 ^ぞ ^方 ^{コレ} ^ハ ^有 ^が ^さ ^い ^歌 ^款
 舞の菩薩^を遊^り ^と ^{ころ} ^ち ^く ^記 ^ア ^レ ^み ^洞 ^さ ^ん
 一^一 ^た ^ん ^一 ^五 ^お ^れ ^が ^ど ^ふ ^一 ^た ^佳 ^ぶ ^一 ^た ^英
 葉とあ^ら ^る ^菊 ^の ^方 ^き ^く ^の ^り ^及 ^は ^遠 ^ら ^れ ^と
 方[×] ^流 ^活 ^{さん} ^お ^め ^り ^り ^と ^{ころ} ^ち ^く ^あ ^ん ^お

五 ハイ ^そ ^こ ^さ ^ち ^ろ ^と ^五 ^あ ^ん ^ど ^蓬 ^菜 ^山 ^を ^生
 ころて来^て ^か ^方 ^毒 ^の ^ほ ^ろ ^が ^出 ^一 ^佳 ^下
 早^び ^を ^い ^ろ ^あ ^ん ^か ^因 ^子 ^代 ^の ^た ^め ^一 ^と ^湯
 難^が ^の ^松 ^孔 ^歳 ^寒 ^然 ^後 ^知 ^松 ^拍 ^之 ^後 ^彫 ^也 ^釈
 色不異空空不異色^は ^も ^た ^ふ ^ト ^事 ^ぞ ^三
 モ ^こ ^{それ} ^へ ^あ ^ん ^の ^ゆ ^で ^流 ^活 ^を ^中 ^と ^釈 ^あ ^ん ^の ^ゆ
 り ^お ^れ ^も ^あ ^ら ^る ^ね ^一 ^釈 ^コ ^ヤ ^を ^か ^ら ^し ^ん ^多 ^き ^よ ^佳
 時 ^よ ^ち ^と ^鼓 ^を ^始 ^め ^ね ^く ^一 ^方 ^今 ^酒 ^を ^て ^り ^を

まか 太 かひさふ鼓こぞ流ながぞ立て舞まがり
孔くわ 鳴鼓なるこ動春心うごけはるこころ 五 燭ろうそくが寂滅じやくめつ為樂いらくと
あつ 五 只今ただいまはさむを不ふでたけいし
た 五 盃さかづきとこふある 亭 笑わらふあるぞ 五 され
か 五 唯ただ盃さかづきとさるるさるる 亭 せんあふば
ま流ながはらう 五 けちやアアりやうう 流ながせん 佳
是こゝろいどうだ 五 せんあふば者ものをさまふとめ松まつ
茸しんじゆあどのほとふ 五 夜よヤヤををかかうういいヤヤりり

ちうちうへへなりやアアききいいんんざざいいと 五 それで
由よし流ながるる松まつ茸しんじゆといいふふ 五 りやああうう下したへへ 佳
ぬぬ 五 りああいいけけささるるぬぬ 五 あんあんぞぞら
指ゆびよよををめてめて居ゐるるの 佳 ああききででおおままええがが能よく
あありりしして 五 どれどれおおままええよよかかいいななををめてめて見み
よよ 五 どどふふいいてておおままええよよをを流ながるるのの 五 ササ
ササアアををりりへへををりりたたががわわけけぬぬ 五 笑わらをを
踏ふががけけささららせせ 五 どどふふいいてて見みててもも抜ぬけけ

是ハ雅俗雅ヲヤ俗をくらしハ五これ佳
陰子佳あんご五そちをちを佳それ
より太おかげで五あつたとき
アシ五ちとおま五あつた
ま五あつた
つこ五あつた
ま五あつた
だ五あつた

あり五あつた
町五あつた
ひよ五あつた
らん五あつた
尖子五あつた
雅楽五あつた
ヤ五あつた
平五あつた

亭 おせんが出陣と 太 苑んご血鉢が並んで

山田の大蛇の坪のよまご せんが出ると女侍とてり物さう禿給仕

まろ新也丸 新 ヤヤぬーまきまのりるひるを

あふんまかろこととせんえふん 疾 これと

わろが方のけとあご 足 それごろても 万

ころちのほふあよま ウ 佳陸 カ たんとお

あふん 佳 ねちそろだぬ 孔 ね馳をの

玉酒聖人の飯乾天の 玉 万客あむ

あふちと破ひ物とあご 五 是はよまこ

アオマセ 亭 おまろがぬいあされま 太

かくまご 疾 ちて モウ けぬ 疾 おれが

飯の不増不减 疾 八味飲食でも喰 疾 秘

亭 其らろがさぬほがる 疾 たお茶よでも

ねつけ 疾 され 疾 せんふ 疾 事 疾 みにて

空と寂こと 疾 かつこ 疾 小 疾 食不語

佳 ああ 疾 モウ 疾 ね 疾 仕 疾 也 疾 で 疾 ね 疾 び 疾 ん 疾 ぼ 疾 せ 疾 り

きんドは太 淋んぶるの登て天をさるる 五
くめりぬたり 天よ八重雲がかり
釈ホニ 紫雲がたふりよ 紫の月を
覆ふを思ひ 毎夜さんおやくらまね
のん世よりふまらこの ちあるさんよせ
うあうせうなうら 役者せうあうとら
のそあうつてめし時う アリヤア しろとた
りうらひ せうあうくく 園あ

をうせえ ころちやせんあゆみあやせえ
それでもせうあうくくとらふやアぬ
う 佳 この子もモウ 怒がうらぐあうら
先別せうらだうら 兩人 しろちやアや
それ其怒が 怒とらを李延年が唄
を倍こやアぬく 今でせよあれも
李伯が詩の名花傾國両相歡時分は流
初このので 五 ああう方へ李伯らへは存

て内産りはまろ 孔 どんぐんふ中すい 太 扇
屋一初と笑ひくらけ 五 左中うでぬざりま
す滝川さんへ余程ぬ出ふされはゆいふけ
以の宗匠ありと中う花舎と中うを来
されろそふでぬざり中う 孔 ぬれり由
搦物とくした程由実小あると かところ
歌 あんざんやア滝よごちろのハ毛纏の
よよ吸着 太 まろの滝好 歌 七れより

け吸着へあんのゆだ 孔 ヤ酒とるると
男へ命ぶよ長安市上の酒家で一斗吞
て碎い焼れてぬびまろてもゆくぬそれ
かうゆがふたにありてこえた事を始めて
杜子美 万 杜子美 万 杜子美 万 杜子美 万 杜子美
りは 歌 け搦物の陶淵明が筆のそん物
より 万 りろそまね 万 おま
さんそりよとろちよ 万 ちよ 万 ちよ 万 ちよ 万 ちよ

けつちふんあん一巻 けつちふんかん
 一孔 けつち大勢せいでいふもふんねんぞ太
 ちきぐふんものまじりまじけ釈せん
 けつち二牧一あよしてこふるがくおれが
 早はやとふりうとれと能くよるの
 小こきん大あん大マア釈はやくく観音くわんおん
 経きやうよまよサア妙法蓮華經觀世音菩薩
 普門品ふもんひん第二十五孔 サア釈

大いふもそふりいれやせん釈 せんあう釋
 うふりふん大いふも大いふも大いふも大
釈 引道いんどうふん佳 是のいんごのゆり始つこ
釋 サア釋 せん一 釈 それはくくおのんはれの
カ それちうく小せんえれのとふもおかり
 けつちいれやせんツ十二こおのんはれの
 ねんサア釋 せん一 釈 おのんはれの
 て一ふ小せんいふがうのとれつく

かめんこれば人なる萬事^{ばんじ}お中の澄^あの如く
くん^{アト}大まきか敷きま^ま ^大サ^シヤ ^まく^くあ^くら^らん

^四 ^ワら^らや^ア ^くひ^付あ^んま^と ^く思^ひ申^たよ ^五
そんか^るゆ^いよ^うて^コら^ちふ^れて^お仕^せひ

あ^ん ^六 ^ワら^らあ^けて^ひろ^くせ^るら^い ^七
それ^りろ^ろふ^く ^八 ^コら^ち人^あけ^あん

^九 ^それ^あけ^さ ^十 ^ワら^ちう^ひろ^い ^{十一} ^ト云^あく^ろ ^{十二} ^ワら^ちて^おく^ま ^{十三} ^あく^けて^お物^る

たそ^ろぐ^い ^{十四} ^を浦^さん^く ^{十五} ^の人^さん^ち ^{十六} ^と

あ^づろ^ふ ^{十七} ^あん ^{十八} ^ちと^こら^ち ^{十九} ^い ^{二十} ^い

^{二十一} ^諸客^入床^あ ^{二十二} ^い ^{二十} ^い

^{二十三} ^御遷^宮 ^{二十四} ^あ

^{二十五} ^わ ^{二十六} ^あ ^{二十七} ^あ ^{二十八} ^あ ^{二十九} ^あ ^{三十} ^あ

^{三十一} ^あ ^{三十二} ^あ ^{三十三} ^あ ^{三十四} ^あ ^{三十五} ^あ

^{三十六} ^あ ^{三十七} ^あ ^{三十八} ^あ ^{三十九} ^あ ^{四十} ^あ

申た^和たをこそおあんあん^太アイ^和ぬー
やアたり中の町のちろと倅^いせを登でん
うけ中いいたよ^太ソリヤア^和り^和た^和り初て
の月見のをん^太ハテか^和それくあの時の
八幡^まがやうや^和来^和ふよつてはき合よ
来^和はいでふあつて時^和ころ^和そのハ
ゆんさんとやうもりつちうが肉^和は出あん
あ^太いたぬ^太ア^和おを^太揚^和らうと

度と出考中^和今でいどろち久^和は出あん
と^太た^和あまの^和深川^和ぬ^和ころ^和ら^和
つあんまり来^和やせん^和ぬ^和の^和事^和と^和ころ
ちやアよくあつて^太と^和ふ^和して^和
と^太ふ^和ても^太ア^和ど^太の^和女^和席^和さん^和が^和ら
あ^和り^和い^和せん^和が^和岩^和戸^和さん^和と^和や^和う^和の^和あ^和で^和肉
ま^和ば^和ら^和う^和や^和ら^和ふ^和あ^和ん^和して^和居^和は^和ど^和け^和と^和は
あん^太た^和とい^太事^和ま^和ま^和う^太た^和と^和れ^和

とんぶらせび 和 うそでいあるせんそれか
 らぬーの^{かんころ}志^{かん}述^{ころ}して居あんさうすめさんと
 中^{あつと}といふ^{あつと}養^{あつと}者^{あつと}病^{あつと}と戸^{あつと}隠^{あつと}さんと素^{あつと}人^{あつと}犯^{あつと}え
 うあると中^{あつと}う何^{あつと}んと中^{あつと}うと^{あつと}りてむりよ連^{あつと}
 中^{あつと}てか^{あつと}りん^{あつと}あん^{あつと}したといふ事^{あつと}をた^{あつと}か小^{あつと}学^{あつと}ひ
 した 和 注^{あつと}とさ^{あつと}濁^{あつと}く^{あつと}ふ^{あつと}注^{あつと}流^{あつと}宣^{あつと}が^{あつと}出^{あつと}る^{あつと}の 和
 今夜^{あつと}かどいつ^{あつと}に^{あつと}合^{あつと}で^{あつと}出^{あつと}あ^{あつと}ん^{あつと}したろ^{あつと}ね
和 付^{あつと}合^{あつと}あ^{あつと}ら^{あつと}情^{あつと}弁^{あつと}に^{あつと}新^{あつと}造^{あつと}を^{あつと}あ^{あつと}け^{あつと}る^{あつと}ハナ

和 ホニ 新^{あつと}造^{あつと}を^{あつと}あ^{あつと}け^{あつと}あ^{あつと}ん^{あつと}を^{あつと}方^{あつと}の^{あつと}情^{あつと}の^{あつと}あ
 ひ^{あつと}の^{あつと}で^{あつと}あ^{あつと}き^{あつと}よ 太 無^{あつと}情^{あつと}さい^{あつと}わ^{あつと}ら^{あつと}新^{あつと}造^{あつと}
 賞^{あつと} 和 ぐ^{あつと}ら^{あつと}ち^{あつと}も^{あつと}そ^{あつと}ん^{あつと}あ^{あつと}ら^{あつと} 太 け^{あつと}ら^{あつと}ち
 ら^{あつと}向^{あつと}次^{あつと}才^{あつと}で^{あつと}罷^{あつと}利^{あつと}生^{あつと}が^{あつと}あ^{あつと}る^{あつと}の^{あつと}さ 和 を
 ち^{あつと}と^{あつと}あ^{あつと}ら^{あつと}と^{あつと}り 太 た^{あつと}と^{あつと}ら^{あつと}わ^{あつと}ら^{あつと}あ^{あつと}ら^{あつと}ぬ
 一^{あつと}に^{あつと}あ^{あつと}ら^{あつと}ぐ^{あつと}ら^{あつと}後^{あつと}で^{あつと}さ^{あつと}ら^{あつと}あ^{あつと}ら^{あつと}ぐ^{あつと}ら^{あつと}ら^{あつと}でも
 ぬ^{あつと}ふ^{あつと}神^{あつと}さ 和 あ^{あつと}ん^{あつと}が^{あつと}こ^{あつと}ら^{あつと}ち^{あつと}で^{あつと}ど^{あつと}の^{あつと}よ^{あつと}あ^{あつと}ら
 思^{あつと}ひ^{あつと}して^{あつと}も^{あつと}わ^{あつと}ら^{あつと}が^{あつと}犯^{あつと}言^{あつと}ぶ 太 け^{あつと}ら^{あつと}

いふ事一を辨はとさるから人も後ごて
思つてい無跡むせ也や 和 だまされあんは思おもひ
太 そんなあはれおしてさういらの世よに因
小いりうやせう 和 リリヤアとよとぬーの
念ねんあんとのいじんもんぶ息子いきこさんどの
神かみさんだめと斗たたかえりうあかりうしき
やせん 太 ころちら念ねんりりちがふら佛ぶつ
幣へいと云いやして 和 めき情じやうさんとくあむく

あつあつであついまね 太 どういうあひてい
ろそふで大おほがさむい 和 うらうらうとあひて
いりうか 和 小いびとめりうこと 和 ヤ紙かみがらうと
飛とびい 和 たまきんせらるでりた 和 ねーア 歌うたをよこ
あんま 太 流ながんでえねくけしーらの其そのあ
さ 和 ナニタムとよ儀ぎの及およぶあひるが祈いのち
らせととも神かみや海うみらんまーいんなるゆ
まーいーいりあんまあーめふめえ

きるやうにあいせうのうどまぞまゐん
し太せんあう神おろしう陽祈せう折せうとま
るがら和とよでもあひせうかくこんど
一人で来るんしあん少太まきやア来
よふがせんとい今まごら月よひ様へ初はつうねけりや
あうね和う花はなさつたあんとあ太な
のりだ今とせんといづるけこの和
かせ太出い雲がもの方ちやう縁えんごんの学がく活くわふ

初はつくめ和あん少太お前まへ新あらた造つく屋やおの
らんちるとすうり祝いわい籠かごをかゝあん其終はつのます親
考かんがふ三よく寐ねあん其た親ね其付つ生せい安あん
樂らくよく寐ね入いて居ゐるののさち其免めんとあ親に
た三あん其ま親う其ほほををああんんせせううををれ
で親ととううじじややああねね枕まくらええでで一いっ切せつ徑けいととかか
りりどどままろろととららてて何なにううみみ斗たせせららて
居ゐる三かかうあふふささああげげのの人ひとさんさんととらら女にょ

帝流の宿仁が後をうて来あんせん
それで命を失ふ心志釈生者必其の
浮世のありさ留まけくられい又遠さ
る事もあるのだ三モちろとそりよん
ふん釈とんどはめて入んぞぞ金佛を
抱ひて痛の中だ三ぬアらりそさろ
て居あんまね釈飲酒戒をゆるひ三
りりやうとんぞかせくまよ釈かせ

たう女があれのそん三あつうよ釈
悉達太子といわれが雅志三そんふこ
とをらあんまそりやアそふとぬ一の
方にとらちる釈天皇三をかくい
てんぢくとも雲の上三そんさ三け
つちやア雲の上へ登りてんともあそ
よ釈天人よあつてがらく三そふいたう
苦界であくてもよあせらぬ釈上界

の天人も退没の雲よかあしむ五衰と
てあれふも若くあるのさ 三 ヲヤウ一の
おさるの志中にやろがあらはさよ 釈
ろといふもへ夜るあく物び 三 よく茶
斗りてあんと 釈 生れし時茶を湯
かけたりとそれと 三 どふとぞぬのち
ハサスとぞおとあのかついでかざる
それちうだんとあういせ病来たと

思ひのさ 釈 法徳へ坊主のさ 三 ぬーア
お寺に直ぐぬ 釈 十三 医者さ 三 かうあんと
ふ和尚さんでおさア 釈 和者り女師貴も
とんご事ご徳一色即是空煩悩衆生
則菩提ご 三 前ごつらろがやく坊さん
がお出るん一たよ 釈 寺へりやだろふの 三 十三
つらちやア坊さんがとんでおと 釈 おまきや
がれ外面如菩薩内心如夜叉 三 いまのおち

さん方へんふがしめめざしてかこさんと
おて居おんとそらだね 釈 妻子珍室及王
位臨命終時不随者おらふかといひのや女
房のまじりひさ 三 せんあうぬーの情がねく
釈 眞實不虛あうあつた 三 あるとら
た客人小情のあるためーがねく 釈 時小未
初のおがーとい吾ー 三 よーなんーきこみ
つらひ 釈 あんすりぬが有りうらぐらこ後

されとてあ 三 死んで仏よなんあん 釈
二月十日よアあるあ おやー席よホニ
が天口て 三 あげやせう梅治ヤア其子う 釈
ころちでおきて 三 冬浦さんうどふぞ きやん
があが天口て 三 ころち あ ころち あ ころち
てえあん 三 その茶えを あ 出ーひす
おあろーあん 三 どふぞお あ ね あ ね あ ね
えて来 三 サア あ え あ え あ え あ え あ え

ごしこれぞうかきやて 三 むじむらまがすと
おあんあん 一 釈 むじむらまがすとてはも功徳
ごのこあをテモいゝまじむらまがすと 嫉鬼の如くのこ
たろゝが是で成仏 一 女を 邪 せんあうか
休あん 一 三 アイ 釈 諸行無常としひぐくハ
ハつちちと涅槃ふあよ 一 上人あがらむく 一 悔る
困 十方徳土の乃ハかうて凡ふ遠ひぞとぞ
そつて 釈 だれぞ 一 太 善哉 一 我ハこれ 一 釈

息子うららうそ 三 おんりあん 一 太 それ
より孔子さんがあふう逆鱗ぞとてうで小云
の智がよる 一 釈 それいといふ事だ 一 太 青樓で
小云をいふのいりうくの滑穽本小もさひ
てんごあの人小も似合ぬ 一 釈 行むアある
めりう座をさるが衆別離苦さ 一 太 邪見の
室小いあうとぞとぞとあうんてもさあれま
トスあうとめろとぞとぞとあうんてもさあれま
いあやストりふたをと吞あぐう大きよあいたつくりろ

孔子の言を以てしむ **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
けてつたよめる **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
物に雖放蕩子未有うごふも臣があせう
ちご如此踏張と得るのも天の命ざるあう
あうぬぐが面のさるるの大学ふることれど
も **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
まをあまてのうあんぐら糞土之墻の如く
小行あうて **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
つてらんる危邦不入乱邦不居こんあ

唐 不小居ふより **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
何んで **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
はいとぬくあくなのさほく事がついぞある
こくあくなのさほく事我人のこくか
あらず悪くあうらまやんと思ふふいうねが
胸中のツご客人の善不善ハ踏張の勉よ
よる久 **孔** 平帳紅圍小大平樂の巻
くふさうせくおとあーくくれば其功徳

小よりて洋銅熱鉄の初舎も忽功徳地と
變後世寂光淨土の如く小ありと宝篋
印陀羅尼經の通言也因和尙の深徳を
引てのこほふとく今昔へは一しく
て海でも呑んでくへぬ孔家の海か
呑るりのり有へあんど魚鮓而肉敗色
惡自西不食是がくくつのりのりと
わうゆぬくトけらすしひやり一
異浦ヲヤアん

だをかりし孝子と云ふ客入也因是へどあたら
不調法親とと云ふ人よあつ一伊ヤ安安
筆跡し老いらさぬ一ぢりておめふ孔
つこ小と云ふの孔子もとか一ゆぬ孔
ガさるゝあるゆさ一三人で破チ子破ころ有
しつけ其後一孔一か一異一端一の骨長一の
和尙をば因外一たの一と破一て虚無一空寂一
で一人でもあれる一因一指一で一有一未一社一の

小よりて洋銅熱鉄の初舎も忽功徳地と
變後世寂光淨土の如く小あると宝篋
印陀羅尼經の通言也 **因** 和尙の深紙を
引てのこほふどく今有るは **一** しく
て酒でも呑んでくへぬ **孔** 室の酒が
呑るりのり有るあんど魚餒而肉敗色
惡自西不食是 **孔** ぐうぐうつるりのりと
わうゆぬ **孔** けりすひや **異** 補 **ヲ** せん

だをかりし **孝** こと客へ **因** 是ほどあたら
不調法 **類** こと人よあつ **釈** イヤ **娑** 婆
娑婆 **孔** いらさる **一** ぐうておめふ
つこ小とさよの孔子もとか **孔** もぬ **孔**
 十 二 **ガ** さる **一** みる **一** **釈** 三人で **十** 破 **一** 碎 **一** ころ **一** 有 **一**
 一 つけ **一** 其 **一** 終 **一** **孔** かつ **一** 異 **一** 端 **一** の **一** 骨 **一** 長 **一** の
和尙を **一** 因 **一** 外 **一** 乃 **一** た **一** の **一** 破 **一** 虚 **一** 無 **一** 空 **一** 寂
で **一** 人 **一** で **一** 有 **一** る **一** の **一** **因** 指 **一** 有 **一** め **一** 未 **一** 社 **一** の

神が有る〔表〕楊朱思翁集でも有る〔卷十二〕
 招樂こそりやアとふと三人あがら〔後世〕
 くたつけり中ぐくあつる〔礼〕後世恐く
 中ぐらふら鼎足の如くだ〔表〕西の西とよま
 きつるの西よあらずに人二ふよ大乃とるふ
〔表〕弘析の祀とふとふ〔因〕海の二二人や
 の字とよ藤牙と二柱出せと令して〔表〕
〔三人〕きろいの人と〔表〕西〔表〕西〔表〕西〔表〕

通詩選笑知

〔表〕通詩選五言後句と尚其の
 風流小仕まらたけりる此か之

澁都酒美撰

在るの桃灯級おわすとまあ
 紀しそれくよ後を加らわす

柳巷化言

柳巷とれと一必とのる少之能
 云の面ふれや突せし集るる云

天明三癸卯正月日

地本問屋

葛屋重三郎

